

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	15H05786	研究期間	平成27(2015)年度 ～平成30(2018)年度
研究課題名	これまで見逃されていた好塩基球の存在意義と病態形成における役割	研究代表者 (所属・職) (平成31年3月現在)	烏山 一 (東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・教授)

【平成29(2017)年度 研究進捗評価結果】

評価		評価基準
○	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、これまで過小評価されてきた好塩基球の機能や病態形成における役割の解明を目的に行われ、幾つかの重要な進展があり研究は順調である。例えば、好塩基球特異的なエフェクター分子、mMCP-8、mMCP-11 及びヒトリプターゼの活性や炎症惹起作用を明らかにするとともに、好塩基球がトロゴサイトーシスにより樹状細胞から獲得した MHCII・ペプチド複合体を T 細胞に提示し、Th2 細胞を誘導できることを証明するなどの成果を上げている。一部の研究は計画を上回る速度で進展しており、成果は着実に国際的な学術雑誌等に発表されている。

【令和元(2019)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待以上の成果があった。
A+	炎症惹起機構における特異的エフェクターの解明や Th2 細胞誘導メカニズムの解明、脂質メディエーターの産生、生体防御機構の解明として、マダニ感染に対する生体防御機構の解明、好塩基球の遊走・組織浸潤機構の解明など多方面に解析を行った。特に、アレルギー反応に関わる Th2 細胞の分化誘導に関わる抗原提示細胞が樹状細胞か好塩基球なのかが論争されていたが、樹状細胞に発現した MHC クラス II 分子が、本来 MHC クラス II 分子を発現していない好塩基球にトロゴサイトーシスによって樹状細胞から獲得することで Th2 細胞への分化誘導ができることを明らかにしたことは、アレルギー反応における好塩基球の重要性を明確にした。この点で期待を超える研究成果を上げており、研究内容は高く評価できる。また、これらの研究成果は国際的な学術雑誌に発表されているだけでなく、多数の新聞報道もなされており、研究成果の公表の面でも申し分ない。